

テーマ

ネットワークを利用した学校間の連携と交流

～ 北海道の地域の特性を生かした交流教育の一環として～

大学院教育学研究科学校教育専攻

4953 佐々木 朗

1. 主題設定の理由

北海道の教育の特性として、広大な敷地面積があることから、学校間の距離が離れている、小規模校（単級校、複式校、僻地校）の割合が高い、などが挙げられる。学校によっては、子どもたちだけでは、運動会や学芸会などの成立が難しく、地域と連携して実施しているところもある。小規模校においては、児童・生徒は限られた集団の中でのみ人間関係を育むことになる。一方、子どもたちの社会性を育てるためには、より大きな社会集団の中で切磋琢磨することが求められる。しかしながら、学校同士の連携となると地理的な状況が大きな壁となり、移動手段や移動時間などの課題が山積している。

このような課題のある中で、特に北海道に多い小規模校は子ども一人ひとりに目が行き届くという利点を生かしながら、児童・生徒の個性を生かし、様々な特色ある教育を行っている。

その一つとして、インターネット技術を活用した交流を推進していきたい。ミレニアムプロジェクトにより来年度末までは全国の学校が高速インターネット回線で結ばれることになっている。私はこの技術を積極的に利用し、電子メール、掲示板、WEB、あるいはテレビ会議を利用して、児童の交流に取り組んでいきたい。

具体的な策として、テレビ会議システムを使った例を挙げる。北海道の場合同一町村に数校の僻地小規模校が存在することが多い。年に数度集まって交流し、発表会などを行うこともある。そこで一番頭を悩ませるのが児童及び教師の打ち合わせである。テレビ会議システム（道立教育研究所のシステムは予約すると無料で利用可能）により、児童同士の打ち合わせ、発表練習などを行うことができる。このことにより、際に移動して打ち合わせる回数を減らすことができると共に、普段からの交流が可能となり児童同士の親密感も増す。

教育の情報化は市街地、僻地と区別することなく全く同じ土俵の上で勝負することができる。むしろ、僻地の小規模校の方が、児童・生徒一人に当たる機器の数は多いであろう。

以上のような理由から、小規模校の多い北海道では、情報通信ネットワークを積極的に利用して、児童・生徒の交流学習を通して好ましい社会性を育てると共に、情報活用能力を育てるため、上記の課題を設定した。

2. 情報通信ネットワークを利用した他校との共同学習

今まで述べてきたように小規模校では、限られた集団の中での生活のため、より広いコミュニケーションを育成するねらいとして、情報通信ネットワークを使った共同学習を進めることができる。推進にあたっては、児童や生徒のふだんの学校生活では育ちにくい力を明確にする。学校や地域の実態の把握に基づき、相手校の選択や相手校との学習活動や学習方法の計画を立てるなどの準備が必要となる。

その上で、次のような学習方法の形態が考えられる。

電子メール交換による交流

- ・学習の様子や学校や地域の様子を伝える。
- ・相手校や相手校の地域のことを尋ねたり、質問に答えたりする。

ホームページ閲覧

- ・地域や学校の様子を伝える。
- ・調べたことや学習のまとめ・結果を伝える。
- ・相手校の調べたことや学習のまとめ・結果を知る。

テレビ会議システム

- ・同時刻にテーマに基づき、お互いに発表を行い、質問や話し合いを行う。
- ・共有掲示板などにより、成果をまとめる。

3. 想定される具体的なネットワークシステムを使った共同学習

(1)シナリオ 同一町村の小規模僻地数校が一堂に会し、町で行われる町民文化祭において「青空っこ学校」メンバーとして合唱を発表する。僻地校同士は距離的に離れており、交通の利便性もよくないことから、合同練習はリハーサルの一度のみとなり、あとは本番となる。合唱練習はそれぞれのパートで行うが、並ぶ順番や挨拶などを、できるだけ高学年が中心となって、自分達の手で計画を進めさせたい。

(2)ネットワーク利用の目的

教師の側から 企画の文書、写真、データなどをEメールで送ることにより、情報の共有を行う。MLにより、時間を制約されずに、意見交流を行う。

児童の側から テレビ会議を使い、離れた空間を越えて、自己紹介を行うなどリハーサルで会する前の交流を深めると共に、代表者の挨拶内容、並び順番などを自主的に決めさせる力を育てる。

4. ネットワークシステムの構成

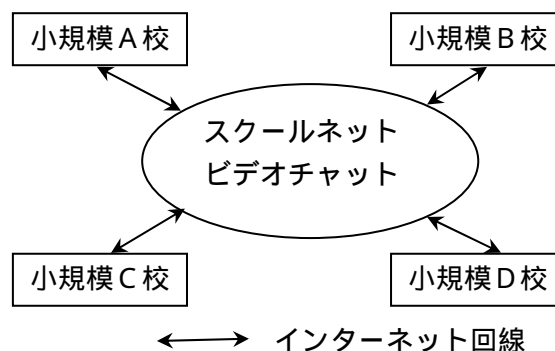
(1)必要な情報機器のシステム

パーソナルコンピュータ、USBカメラ、マイク、ブロードバンドインターネット回線。必要に応じて、液晶プロジェクター、スクリーン。

(2)ネットワークの構成

北海道立教育研究所附属情報処理センターが管理している「北海道教育情報通信ネットワーク ほっかいどうスクールネット」のビデオチャットを利用す

ると4校までがログインすることができ、テレビ会議を行うことができる。
<http://www.hokkaido-c.ed.jp/>
 センターより発行されたパスワードにより4校までログオンすることができる。現在10チャンネルほどあり、ほぼ、いつでも使えるような状況にある。



5. 期待される成果と課題

(1) 期待される成果

- ・ 学校間交流が深まり、児童の社会性が育つこと。
 限られた児童集団の中の人間関係から、同じ世代の児童同士の交流活動により、より広い人間関係に幅が広がり、児童のコミュニケーション能力を育て、同時に社会性も育てることができる。
- ・ 他の学校の様子を知ることにより、一層自分の学校に向ける目も育つこと。
 自己紹介や学校紹介を相手に伝えるためには、自分のこと、自校のことをより深く知ることになり、自校を愛する気持ちを育てると共に、同じ郷土に生きる連帯感を育てることができる。
- ・ 情報化社会に育つ子どもたちの情報活用能力が育つこと。
 情報機器の活用を推進することにより、今後益々進展するであろう情報化社会を生き抜くための児童の情報活用能力を育てることができる。

(2) 課題

- ・ 教員の情報機器に対する温度差の解消
 情報機器に対する職員の研修体制を整え、教育の情報化、情報教育の推進を進めていくこと。
- ・ ハード面の充足状況の格差の解消
 地域によって格差が生じることがないようにコンピュータ整備に賄われる地方交付税の使途に注目していくこと。

6. さいごに

教育の今日的な大きな課題として「特色ある学校づくり」が求められている。このことを具体化していくためには、児童・生徒の実態、地域の実態はもちろんのこと、時代が求める情報教育、環境教育、福祉教育などのあり方も押さえておくことが大切になってくる。更に今回の演習で勉強したような教育経営という観点から、学校間のタテやヨコの連携などの私にとって新しい教育に対する観点も学び、引き出しをふやすことができた。

私は、自校において中堅教員として、また渡島全体の情報教育の推進者として、自己の使命を自覚し、情報教育を一つの生涯の研究の軸としながら、これからも研鑽を続け、教育実践に邁進していく所存である。